

ゴーストに矛と盾

石黒健一 ISHIGURO Kenichi

1986年神楽川県生まれ。2009年京都造形芸術大学彫刻専攻卒業。
2010年福井県伝統的工芸インテラティブ・オブ・オブジェクト若狭瑠璃研修参加。
2011年広島市立大学大学院博士前期課程現代表現領域修了。主な
な展覧会に「BankART Life V 観光」(2017年、BankART Studio
NYK / 神楽川)、「未来の途中の星座 美術・工芸・デザインの新鋭
9人展」(2017年、京都工芸繊維大学美術工芸資料館 / 京都)、個展
「TAUTOLOGY」(2016年、VOU / 京都)、「KUAD graduates un
der 30 selected」(2014年、GalerieAube / 京都)、「アート・フーチ
ひろし 2013 サライト企画 建物の生誕」(2013年、本川小学校
平和資料館他 / 広島)など。



大黒堂 44 VOXビル1・2F
〒605-0844 京都市中京区西三条坊町一丁目1番1号
TEL: 075-212-9676 E-mail: info@artzone.jp
open: weekday / 13:00-20:00, holiday / 12:30-20:00
www.artzone.jp

Kawaramachi Sanjo Sagaru Hitotsujime Higashi Hairu,
Nakagyo-ku, Kyoto

1・2F VOX Bld.44 Daikoku-cho,

（一） 堀元崇 元 国公立国際美術専門学校
出演：出品作家2名（守屋友樹、石黒健一）
日時：12.12.16 Sat. 18:30-20:00
アーティストトーク



京都造形芸術大学アートプロデュース学科が運営するARTZONE
では、未来の途中プロジェクト2017「ゴーストに矛と盾」を開催
致します。

本展は、京都工芸繊維大学美術工芸資料館が2016年度まで若手
作家の成長支援を目的に実施していた「未来の途中」プロジェ
クト4期生から選抜された石黒健一と守屋友樹の作品を展覧す
るものです。

ゴーストに矛と盾 ― 目には見えない対象、見えはしないけれど
そこにあるという予感はいっしょに感じられる存在を、美術作
家はどのような作品にすることができるのでしょうか？見えな
いけれどこういうものが存在すると言い張って、その姿を描き
出したり象ったりするといった方法があるでしょう。しかしそ
の方法は、目に見えない対象を無理やり見えるようにしただけ
であって、見えないものが見えないときに持っていた不気味さ
や捉えがたさを捕まえることができないように思えます。

一方、本展の出品作家のふたりは、見えないものに向かって、い
ま書いた方法とは違った仕方であプローチします。

これまで彫刻家として、彫刻と呼ばれるジャンルの特性や自身
の取り扱う素材の歴史性をめぐって思考を続けてきた石黒健一
は、本展において、ともにその時代の人類の技術的な到達点を示
す原始的な祭器と現代の今日的な製品とを、眩い光の中で半ば
暴力的に遭遇させるインスタレーションを発表します。

写真家でありながら目に見えない出来事の予感や世界の運動を
成り立たせている時間性に焦点を当ててきた守屋友樹は、自宅
で小鳥の声を不意に聞き取った経験と自身の難聴経験とを契機
に作られた、写真と映像から成るインスタレーションを発表し
ます。

彼らふたりに共通するのは、ふたりの作品がともに相対立する
要素からなっている点です。石黒の作品における人工物と自然
物、あるいは物質と光の交差。守屋の作品における見えているも
のと聞こえているものの相克。

このようにふたりは、対立するものを重ね合わせるその内側に、
目に見えないものへの回路を開こうとするのです。
そのようにしてふたりが作る回路の先に何が立ち現れるか、ぜ
ひご覧ください。

